

「A」次の文の（訳）の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 ここには、かく久しく遊びきこえて、慣らひたてまつれり。（竹取物語）
（訳）ここ（人間世界）では、このように長い間楽しく過ごし「」て、（あなた方にも）なれ親しみ申し上げました。

① ておりまし ② てくださっ ③ なさっ ④ 申し上げ 1 「」

2 中納言も、「まだこそ見たまへね」とて見たまふ。（宇津保物語）
（訳）中納言も、「（私も）まだ見「」ん」といつて御覧になる。
① ていただきませ ② ていませ ③ たくありませ ④ ておりませ 2 「」

3 官も賜はむと仰せ給ひき。（竹取物語）
（訳）官職も下さろうと「」た。
① おっしゃっ ② 申し上げ ③ お思いになっ ④ お贈りになっ 3 「」

4 早う御文も御覽ぜよ。（落窪物語）
（訳）早くお手紙を「」。
① 差し上げてください ② いただいてください ③ ご覧になってください ④ お見せしてください 4 「」

5 「かかる道は、いかでかいまする」と言ふを見れば、見し人なりけり。（伊勢物語）
（訳）「このような道は、どうして「」のか」と言うのを見ると、見知った人であった。
① おります ② いらっしやる ③ 参ります ④ 訪ねなさる 5 「」

6 娘を我にたべ。（竹取物語）
（訳）娘を私に「」。
① 参上させなさい ② ください ③ 奏上しなさい ④ 献上なさい 6 「」

7 帝は赤色の御衣奉れり。（源氏物語）
（訳）帝は赤色の御衣を「」ている。
① お褒めになっ ② お試しになっ ③ お与えになっ ④ お召しになっ 7 「」

8 定めて習ひあることに侍らむ。ちと承らばや。（徒然草）
（訳）きつといわれがあることでございましょう。少し「」たい。
① いただき ② お受けし ③ お話し ④ お聞きし 8 「」

「B」次の文の（訳）の「」に入る語句を答えよ。

9 きこしめす人、涙を流し給はぬなし。（宇津保物語）
（訳）「」人で、涙をお流しにならない人はいない。 9 「」

10 かぐや姫のたまふやうに違はず作り出でつ。（竹取物語）
（訳）かぐや姫が「」とおりに違わないで作り上げた。 10 「」

11 あはれ、死ぬともおぼし出づべきことのなきなむ、いと悲しかりける。（蜻蛉日記）
（訳）ああ、（私が）死んだとしても「」出し「」だろうことがないのが、ひどく悲しいことだ。 11 「」

12 供の者どもに問ひ給へば、「知らず」と申す。（平家物語）
（訳）供の者たちに尋ねなされたところ、「知らない」と「」。 12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P156～P165

- 1 「④」
- 2 「④」
- 3 「①」
- 4 「③」
- 5 「②」
- 6 「②」
- 7 「④」
- 8 「④」
- 9 「お聞きになる」
- 10 「おっしゃる」
- 11 「お思いになる」
- 12 「申し上げる」